# まちの話題 TOPICS

## Oh!マチMusicFesta

**5月3日［釜石市民ホールTETTO］**

東部地区の中心市街地活性化のため、平成27年から実施する音楽イベントで、今年は会場を昨年度までの青葉通りからTETTOに移して開催。ホールBの屋根のある広場側を開放しメインステージに仕立て、雨でも野外で音楽を楽しめる空間を創出しました。観客は、青葉マルシェやキッチンカーで食料を買い込み、ロックやジャズなど14組の多彩な演奏を楽しみました。

ゲストの広島出身レゲエシンガーDRIBBLA（ドリブラ）さんは、平成26年の広島の土砂災害と東日本大震災に思いを寄せた曲を披露しました

## かまいし春まつり

**5月4・5日［釜石駅前］**

市内外から訪れる皆さんに釜石の食と観光をPRしようと、物産品の販売やラグビーワールドカップ2019™日本大会のPR、釜石観光ガイド会による「街なかガイド」などが行われました。4日はあいにくの雨模様の中、訪れた人はお振る舞いに舌鼓を打ち、お目当ての商品を買い求めました。家族4人で秋田県湯沢市から訪れた観光客は「ホタテ釣りを楽しみにして来ましたが、中止となり残念です。釜石は初めて。観光を楽しみたい」と話しました。

貝毒発生のため、ホタテ釣りはイカ焼きに変更。イカ焼きや鮭のつみれ汁のお振る舞いに行列ができました

## はしの四季まつり 第1弾 橋野鉄鉱山八重桜まつり

**5月13日［橋野鉄鉱山インフォメーションセンター周辺］**

今年は開花のタイミングがうまく合った八重桜まつり。ウォーキングを楽しむ人、写真を撮る人、産直の食品を買う人、遊具で遊ぶ子ども連れの家族など、多くの人でにぎわいました。用意された豚汁300杯のお振る舞いには長蛇の列ができ、早々になくなりました。地元の人は「こんなに人が集まったのは初めてではないか」と盛り上がりを喜びました。また、釜石観光ガイド会による橋野鉄鉱山ガイドツアーも実施され、世界遺産を学ぶ良い機会にもなりました。

恒例の餅まきには、1,500個のお餅が用意されました

## 危機対応学トークイベント「オーラル・ヒストリーで社会の記憶を紡ぎ直す」

**5月19日［釜石情報交流センター］**

東京大学社会科学研究所教授の中村尚史さんを司会に、法政大学キャリアデザイン学部教授の梅崎修さんが研究しているオーラル・ヒストリー（口述の歴史）から、社会の記憶を継承していく方法について議論。戦災や震災などを後世に伝えていく釜石に対して、梅崎さんは「資料が残っているだけでは、記憶は継承されない。物理的空間（space）から、他者と共に想起される、記憶のある場所（place）にしていく仕掛けが必要」と話しました。

会場からも津波の石碑の活用などについて、積極的に意見が交わされました

## co-ba kamaishi marudai（コーバ カマイシ マルダイ） オープニングイベント

**5月19日［シェアオフィスマルダイ co-ba kamaishi marudai］**

釜石○○（まるまる）会議をきっかけに、釜石大観音仲見世通りにある空き店舗1件がリノベーションされ、シェアオフィスとして生まれ変わりました。建物はかつて土産物店として営業していた築約40年の木造2階建てを一級建築士の宮崎達也さんが購入。床板には昨年5月の尾崎半島山林火災で被災したスギを活用した他、インターネット環境やキッチンなどを整備し、1階と2階合わせて約80㎡に約20人が入居できます。利用者はスペースを共有することで賃料の負担を軽減できる他、イベント会場として貸し切り利用もできます。

花巻のマルカンビル再生に尽力した小友康広さんの講演の他、気仙沼市でco-baを運営する杉浦恵一さんを招き、座談会を開催



## 陸上自衛隊第9音楽隊釜石市演奏会

**5月19日［釜石市民ホールTETTO］**

陸上自衛隊第9音楽隊を招待し開かれた演奏会。集まった約650人の観衆は、息の合った迫力ある演奏に酔いしれました。また演奏会中に、火災を想定した避難訓練を実施。出演者や観客らは、係員の指示に従い、場内からホール前広場までの避難経路を確認しました。

震災後2回目となる同音楽隊の演奏

演奏会の途中、避難訓練の様子

## 新緑まつり ～もちつき体験と郷土料理バイキングを楽しむ会～

**5月20日［鵜住居町　民宿前川駐車場］**

東日本大震災以降、橋野町青ノ木で八重桜を観賞しながら行ってきたこの催しを、初めて根浜で開催しました。アメマスの魚汁やイカ焼き、山菜の天ぷらなどの料理が並び、20人の参加者は海の幸、山の幸の味覚を堪能。主催した釜石・大槌郷土料理研究会会長の前川良子さんは「郷土料理だけではなく、子どもたちへの食育活動も行っていきたい」と今後の活動への意欲を語りました。

晴天の下、子どもたちを中心に餅つきに挑戦。あんこ餅とヨモギ餅を作りました

## 菜の花青空レストラン2018

**5月20日［橋野町どんぐり広場裏の菜の花畑］**

UnitedGreen（ユナイテッドグリーン）は、震災後「みんなが少しでも幸せな気分になれたら」という思いで被災した農地や荒れ地を耕し、幸せの色といわれる黄色の菜の花を植えてきました。今年で6回目となる菜の花青空レストランには、市内外から約60人が参加。昨年、鹿の被害に遭った菜の花も、ボランティアの協力で懸命に花を咲かせ、参加者の目を楽しませました。

気功法や尺八の演奏などリラックスしながら、おやさい食堂カラコマ（盛岡市）の三浦聖貴シェフ（釜石出身）による自然食中心の弁当を堪能

## 書道・山野草・煎茶道　第6回合同作品展

**5月25～27日［釜石市民ホールTETTO］**

釜石書道協会、釜石草友会、三彩流釜石蘭煎会の3団体によるコラボ作品展は、会場を昨年までの青葉ビルからTETTOに移し開催。書道作品は、高い天井を生かした漢字や行書など約30点。山野草は通り掛かる人にも見てもらおうと、屋外に面したガラス壁に沿って配置するなど約40点を展示。来場者には抽選で山野草の苗のプレゼントも。育て方のコツも伝授し、手にした来場者は「大切に育てたい」と笑顔で話しました。

来場者は煎茶で一息つきながら和の雰囲気を堪能しました

## 釜石市消防団消防演習

**5月27日［釜石市民ホールTETTO他］**

今年度の消防演習は新入団員6人を加え団員600人、車両40台が出動し開催。TETTOでは消防庁長官表彰などの披露の他、市長表彰、団長表彰が行われました。青葉通り付近ではたくさんの市民が見守る中、昨年から活動を続けている釜石市少年消防クラブの29人がおそろいのはんてんに身を包み、団員、消防車両と共に行進し、防火、防災を市民にアピールしました。

千鳥町の河川敷では、消防車両が一斉に放水。甲子川を渡るSL銀河も汽笛で応援